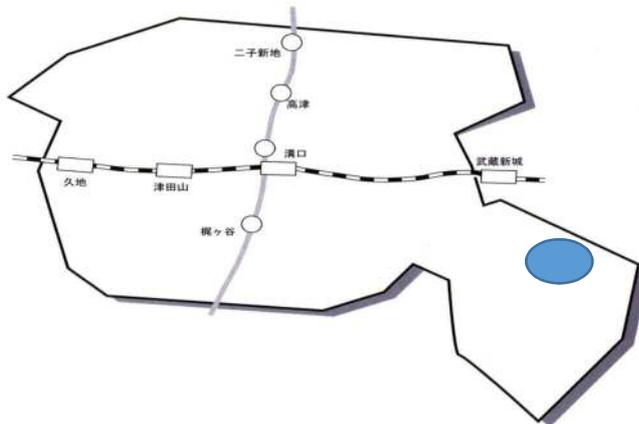


事例6 プラザカフェ(子母口プラザハイム自治会)

1 町の概要



高津区の東南に位置し、矢上川と江川に囲まれた地区。中央を尻手黒川道路や市民プラザ通りが通っており、道路沿いにはスーパーや飲食店が並び交通量も多い。子母口プラザハイムは子母口の南端、蟹ヶ谷や久末に隣接している。約200世帯が暮らし、公営住宅の中では比較的若い世代も住んでいるが、今後の高齢化が懸念されている。

2 見守り活動が始まったきっかけ

子母口プラザハイムでは住民同士で誰が住んでいるかわからない方が多く、災害時だけでなく、平時から高齢者の見守りをできる体制を作っていくことが課題だと民生委員を中心に考えていた。まずは、顔の見える関係づくりから始めてみようということになり、地域みまもり支援センターの保健師に相談しながら話が具体化していった。

具体的には、平成29年5月頃に民生委員と活動に賛同してくれた住民、地域みまもり支援センターの保健師で話し合いの場を持ち、誰でも気軽に来られるようにとの思いから自治会内にカフェを作ってみようということになり、会の名前や日時、内容などを検討した。検討した内容は自治会の役員会で同意をもらい、平成29年6月中旬から自治会の住民に周知を行い、平成29年7月に第1回目を迎えることができた。

4 活動の内容

現在は月に2回、第2木曜日と第4木曜日に開催しており、毎回10組前後の住民が参加している。第2木曜日はレクリエーションを中心とした内容で、トランプやビンゴゲーム、DVD鑑賞会などスタッフや参加者でアイデアを出しながら内容を決めている。第4木曜日は主に体操を行っており、近くにあるデイサービスの協力を得てスタッフに来てもらい、座ってできるようなヨガ体操を1時間かけて行っている。無理のない範囲で座りながら体を動かすことができ、心地よい時間になっている。

内容によっては参加者から100円を費用負担してもらい、食材費などにあてている。また、NPO法人あかね会に協力を得て、サロン開催と合わせて野菜や果物の販売をしてもらい、サロン参加のきっかけにもなっている。

5 課題

まだ始まったばかりであるが、一緒に運営をサポートしてくれる住民が今後増えていき、住民同士で助け合うような場になればよいと考えている。また、参加者は固定化されつつあるため、できるだけ多くの住民に参加してもらい住民同士の交流が活発になるとよい。

